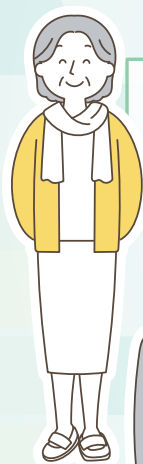


町会・自治会活動への 地域交流アプリ等導入支援事業

成果事例集



東京都生活文化スポーツ局

目次

■ 事業の概要	2
■ 実施内容	3
■ 事業の成果	4
■ 参考データ	8
■ 導入事例 世田谷区 赤堤1丁目町会	10
世田谷区 烏山上町会	12
町田市 忠生忠霊地区自治会	14
町田市 旭町二丁目町内会	16



事業の概要



はじめに

町会・自治会（以下、町会等とします）は、共助の中核として、防犯や防災、高齢者の見守りなど、地域課題の解決に対して重要な役割を果たしています。一方で、町会等への加入率低下や役員の担い手不足が深刻化し、町会等の将来に向けた活動の維持・継続が懸念されています。

そこで東京都は、令和4年度に世田谷区・町田市と共同で「町会・自治会活動への地域交流アプリ等導入支援事業」を実施しました。本事業は、世田谷区・町田市の60団体を対象に、小田急電鉄株式会社が運用する地域交流アプリ「いちのいち～自治会・町内会SNS～」(以下、「いちのいち」とします)の導入を通して、住民同士の交流によるコミュニティの活性化や町会等への加入促進、運営の効率化等を指すものです。

この事例集では、本事業の成果を報告するとともに、これから地域交流アプリやSNSなどの導入に取り組む町会等へ向けて活用事例や成功のコツをお伝えいたします。

地域交流アプリについて

本事業で導入した地域交流アプリ「いちのいち」は、町会等の単位で登録する SNS です。回覧板や町会等のイベント情報の発信、地域情報やスケジュールの共有、趣味やイベントごとのグループ交流など、町会等の運営に特化した機能が備わっており、アプリ「いちのいち」をインストールしたスマートフォン、もしくはパソコンのブラウザから利用することができます。



主な機能

■ 電子回覧板

町会等のお知らせ（防災訓練、一斉清掃、地域のお祭り情報等）を投稿することができます。

■ 地域情報の発信

小学生の登校見守りや町内清掃などの様子、「〇〇公園の桜が咲きました」「お祭りの準備が進んでいます」といった地元ならではの情報を自由に投稿することができます。また、コメントやスタンプ機能もあり、交流も楽しめます。

■ カレンダー

活動予定日をカレンダーに登録し、会員間でスケジュールを共有することができます。興味がある予定にお知らせ設定をしておけば、前日に通知が届きます。

■ 災害ページ

管理者権限が付与されている役員などが災害時ページを運用できる機能です。避難所の開設情報等を発信したり、「避難所へ行く」「避難所にいる」「家にいる」など個々に安否を伝えることができる等、有事の際に役立つことができます。

■ コミュニティ

役員会、子供会、シニアサロン、趣味の会など、グループのコミュニティを任意に作成し、参加メンバーでコミュニケーションを行うことができます。

■ 行政情報の発信

自治体の広報誌の情報など、自治体からのお知らせを直接、アプリの登録者に発信することができます。

※発信した情報は、プッシュ通知で登録者にお知らせが届きます。

実施内容



導入支援

世田谷区では2022年6月1日より、町田市では同年9月1日より、町会等での地域交流アプリ「いちのいち」の利用を開始しました。それに伴い、町会役員にアプリの利用方法等をご理解いただくための全体・個別の説明会を各所で実施し、役員からの問い合わせに対応するための電話窓口も小田急電鉄株式会社に設置。加えて、一般登録者向けのカスタマーサポートを行うなど、利用に伴う導入支援を実施しました。

広報活動

「いちのいち」を使うには利用登録が必要。多くの方に登録していただくため、本事業では、以下の広報活動を実施しました。

回覧用チラシの作成

町会等の会員の登録を増やすことを目的に行いました。

町会内全世帯へのチラシのポスティング

登録促進のための特典のついた「アプリ登録キャンペーンチラシ」を町会内の全世帯にポスティング。町会等未加入者に対しても幅広く案内を届けることができました。

アプリ等を活用した防災訓練の実施に合わせた周知（町田市）

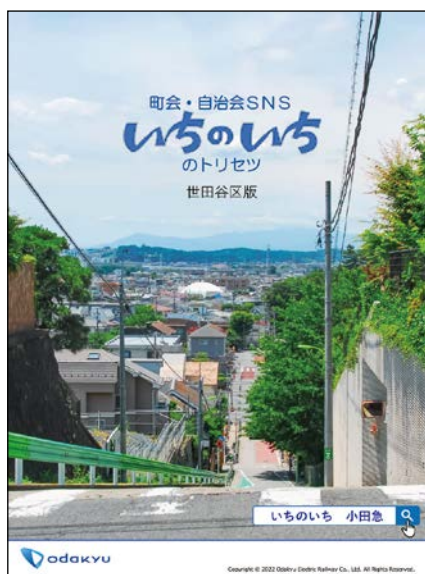
町会等ごとに災害ページを立ち上げるとともに、住民が安否情報を送信する安否確認訓練を町田市で実施。防災訓練への参加促進を図るため、回覧用のチラシを作成して町会等に配布しました。

意見交換会の実施（世田谷区）

他の町会等の事例を参考にいちのいちの活用促進を図るため、活用事例やおすすめ機能等を紹介する意見交換会を実施しました。



アプリを活用した防災訓練
(町田市)



いちのいちのトリセツ世田谷区版
(世田谷区)

事業の成果

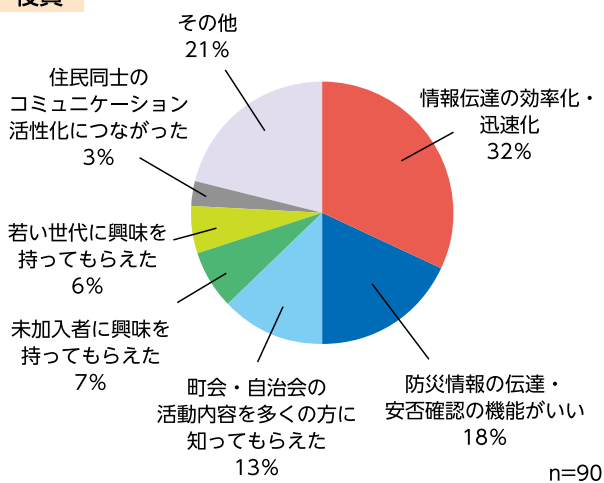


本事業に参加した町会等は、地域交流アプリの導入によりどのような成果が得られたのか。各町会等の役員やアプリ登録者等にアンケートやインタビューを実施し、実際に感じた効果や成果、うまく運用するためのコツ、今後の課題等を伺いました。

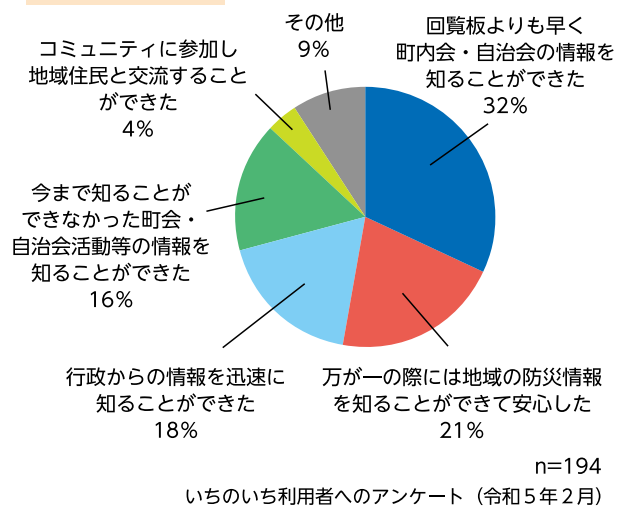
導入により得られた効果

いちのいちを利用して感じた効果について教えてください。

役員



会員・未加入者



【情報共有の効率化・迅速化】

役員、会員及び未加入者の約3割が実感

・リアルタイムな情報共有

回覧板の場合、回ってくるのに数週間かかる場合もあるが、アプリの場合は投稿後すぐに閲覧が可能。登録者が20人以上の団体においては、投稿から2日以内に登録者の72%、一週間以内に登録者の92%が記事を読んだ。

・ちょっとした内容も何度でも投稿可能

紙での回覧の場合は扱われなかった情報や、イベントの変更情報など、ちょっとしたリアルタイム情報を手軽に何度でも投稿することができる。

・再度見たい場合に何度でも閲覧可能

紙の回覧板ではコピーしないと手元に残らない情報が、アプリの場合はいつでも閲覧可能。

・行政からの情報もすぐに届く

世田谷区・町田市ともに2022年9月より電子回覧を実施。1投稿につき1人あたり平均2.4回閲覧された。また、会員・未加入者のアンケートでも18%が「行政からの情報を迅速に知ることができた」と回答。



意見

- ・紙の回覧板だと見落としがちな情報が、移動中でもゆっくり見られてよい（会員）
- ・回覧板は回ってくるのに時間がかかり情報を逃すことがあるが、タイムリーに町内の情報や町内の方の反応を得ることができた（会員）
- ・帰宅後に回覧板を見なくてよいのが楽（会員）

【町会活動の見える化】

役員の13%が「活動内容を多くの方に知ってもらえた」、会員・未加入者についても16%が「今まで知ることができなかった活動を知ることができた」と回答。

・投稿やカレンダー等で町会活動をこまめに発信

通常投稿に加え、カレンダー機能や募集機能で日頃の活動内容の周知につながった。

・未加入者への発信

本事業では未加入者も閲覧可能な機能を活用したため、普段町会活動に触れることができない方々も町会活動を知ることが可能に。本事業を通じて、少なくとも3名の方が町会等への新規加入につながったことが確認できた。また、役員へのアンケートでも、7%の方が「未加入者にも興味を持ってもらえた」と回答。

・若い世代への発信

役員へのアンケートで、6%の方が「若い世代に興味を持ってもらえた」と回答。町会活動に興味を持ちづらい若い世代にも、デジタルで発信することで活動に興味を持ってもらえるきっかけになる可能性が見られた。



意見

- ・今までは閲覧だけでしか情報を流せなかったが、知らせたい内容は多いので、スマホでクイックに情報を流せるのは魅力的（会長）
- ・若い会員を増やしたいと思って始めたが、効果は出ていると思う（会長）

【防災に関する効果】

役員のうち18%が「防災情報の伝達、安否確認等の機能がいい」、会員・未加入者も21%が「万が一の際には地域の防災情報を知ることができて安心した」と回答。役員・会員双方とも防災に意識が高く、災害関連情報の迅速な伝達や安否確認等、災害時に活用可能であることが評価されたことがうかがえる。

【住民同士の交流の活性化】

- ・活用が進んだ町会等では、役員だけでなく一般会員からも投稿があったり、また投稿に対してコメントやスタンプ（いいね、見たよ、ありがとう）もついており、「町会員同士のつながりが深まった」との意見もあった。
- ・地域の中で、ペットの散歩とあわせて地域の見回りを行う取り組みが行われているが、その参加者から「いちのいち内にコミュニティを作成し、未加入者にも入ってもらって活動を共有していきたい」と申し出があり、実際に「ペット防災」コミュニティが作成された例もあった。



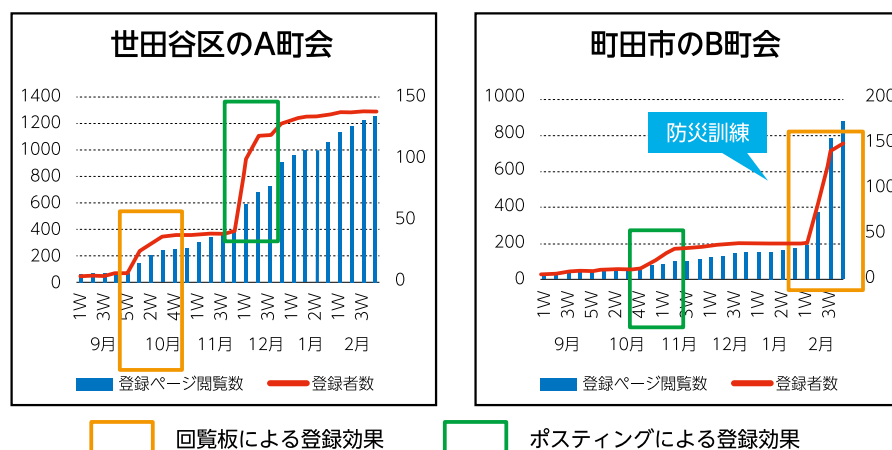
ペット防災コミュニティ
(世田谷区烏山上町会)

成功のコツ

○運営・管理の体制を整える

発信する頻度が少なかったり内容が乏しかったりすると、SNSが盛り上がりず、登録者も増えません。積極的な発信を行なっている町会等の多くは、投稿の役割分担を予め決めておくことで頻繁な投稿を行っていました。1人の担当者が投稿しつづけるのは大変なので、回覧担当、防災担当、コミュニティ担当など、複数人で分担して運営すると活動を続けやすくなります。

○定期的な広報活動



地域交流アプリ内でのコミュニケーションを活発にするためには、まずは登録者数を増やす必要があります。登録者の推移は、登録チラシの回覧、全戸ポスティング、「いちのいち」を活用した安否確認訓練の参加者募集チラシの回覧など、広報活動を行った際に増加しました。一方で、広報を行っていない時期は、ほぼ横ばい状態。つまり、登録者数を増やすためには、広報活動は欠かせないと言えます。

ちょっとした工夫が大切

登録用チラシに掲載した二次元コードについて、町会等ごとの登録ページに直接アクセスするものと、郵便番号から自分の町会等を検索するページにアクセスする場合とで、登録率に3倍の差がありました。登録者になるべく手間をかけない工夫が、登録率のアップにつながるわかりました。

こんな声も

「いちのいち」のアプリをダウンロードするのが面倒。「普及率の高いアプリなどで町会等のアカウントを作ったほうが、取り入れるためのハードルが下がるのではないか」という声もありました。

○登録者が見たいと思う投稿を

登録者にアプリを積極的に活用してもらうには、「見たい」と思ってもらえる情報を発信するのがポイントです。

例えば内容が伝わりやすいタイトルをつけたり、住民の方が興味を持っている情報を選んで迅速に発信することで、閲覧率やコミュニケーションの向上につなげていくことが大切です。

投稿が頻繁な町会等を分析したところ、防犯パトロール、防災訓練、ご近所情報、イベント情報など、幅広い内容で投稿していることがわかりました。また、閲覧については、防災訓練や防犯パトロールなど地域住民のための町会活動に関する投稿の閲覧数が多く、お礼のコメントやスタンプがつく傾向があります。イベントやご近所情報については、タイトルで判断し、必要な人が閲覧していることが伺えました。

ポイント

- ・ 安定的・継続的に運用可能な体制を構築する
- ・ 広報活動を定期的実施し登録者を増やしていく
- ・ 住民の関心が高い投稿内容を工夫することで閲覧率を上げ、コミュニケーションを促進していく

これから導入する区市へのアドバイス

○世田谷区

・ 実施した広報活動と効果を感じた施策について

世田谷区では、令和4年5・6月に全町会・自治会を対象に「いちのいち」の概要や活用方法についての説明会を、6～9月に単一の町会・自治会の地元に向う個別説明会を開催しました。また、令和5年2月には、導入団体による活用事例紹介や導入団体と未導入団体の意見交換を行いました。

各町会・自治会の実情に合わせた活用方法を提示するほか、実際に導入・活用している団体の生の声や具体例を紹介することで、「いちのいち」を身近に感じていただくことができたと思います。

・ 今後広めていく上での課題

「いちのいち」をより多くの団体に導入していただくほか、導入した団体に「いちのいち」を継続して利用していただくこと、「いちのいち」を活用した活動につなげていただく必要があると考えています。導入の支援のみならず、利用継続に向けた支援に取り組んでいきます。

・ 今後期待すること

連絡手段の多様化による利便性の向上と、町会・自治会の会員相互の結びつきの強化とともに、町会・自治会の魅力を情報発信することで、会員の増加、年齢層の多様化、若年層会員の増加等、活動の活性化につなげていただきたいと思います。

○町田市

町内会や自治会のデジタル化と聞くと、「高齢者が多いから難しいのではないかな」や「町内会・自治会に入る人が減るのではないかな」、「町内会・自治会の良さが失われてしまうのではないかな」といったことを思い浮かべる方もいらっしゃると思います。町田市でも、いろいろなご意見がある中でのスタートとなりました。

しかし、いざ始めてみると実に約4割の町内会・自治会のお申し込みがあり、皆様のニーズ、関心が高いことがわかりました。コロナ禍を経て急速に進んだ世の中のデジタル化も背景にあるのかもしれませんが、何より町内会・自治会を盛り上げるためにやれることはやってみよう、チャレンジしてみようという皆様の気持ちが強かったのだと思います。町内会・自治会への参加の仕方の選択肢を増やし、参加者層を広げるツールとして受け入れてもらえました。

ある町内会では、紙の回覧物をやめてすべて「いちのいち」で配信していると聞きます。また、ある町内会では行事を行うのが難しいため休会したものの、有事の際に助け合えるよう、「いちのいち」でつながりが途絶えないようにしているといいます。そうしたいわば「デジタル町内会」は、もはや時代の必然なのではないでしょうか。

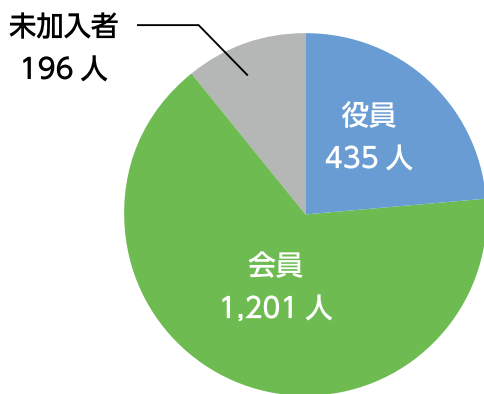
町田市でも参加する町内会・自治会の数、登録者数をさらに増やし、「いちのいち」を単なる情報発信ツールとしてのみならず、地域交流が盛り上がるように活用していく予定です。町田市の事例が皆様の参考になれば幸いです。

参考データ



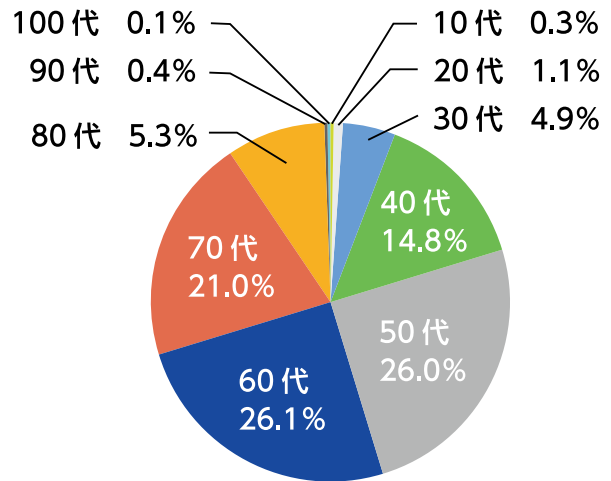
世田谷区、町田市で「いちのいち」を利用している60団体の登録者の利用状況・アンケート結果
(2023年2月28日時点)

登録者数 合計1,832人



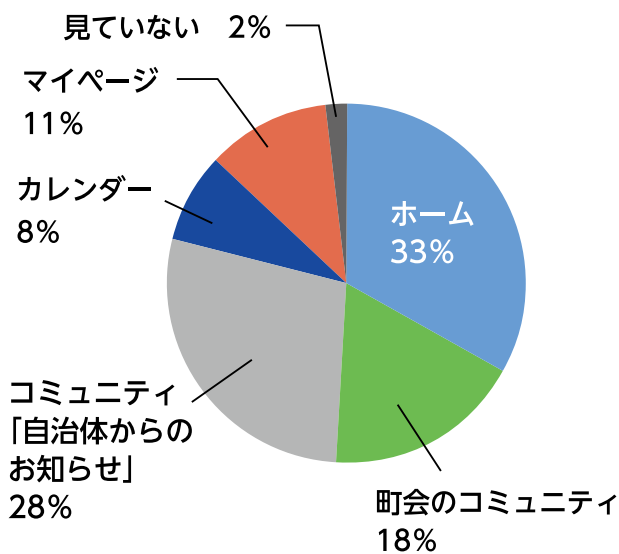
役員を中心に利用を開始し、その後、回覧板や全戸ポスティング等で広報活動を行いながら登録者を集めました。町会等未加入者からの登録もあり、地域活動に関心がある様子が伺えます。

年齢分布



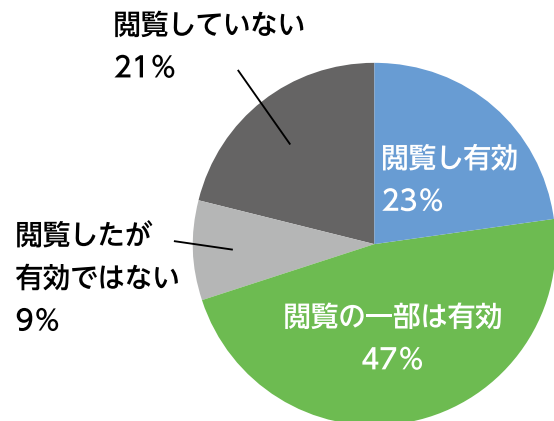
全世代で利用されていますが、50代以上が全体のおよそ4分の3を占めています。主な年齢層は50代・60代・70代。また、80代の登録者も比較的多く、30代以下の各世代を上回っています。

いちのいちで利用した機能



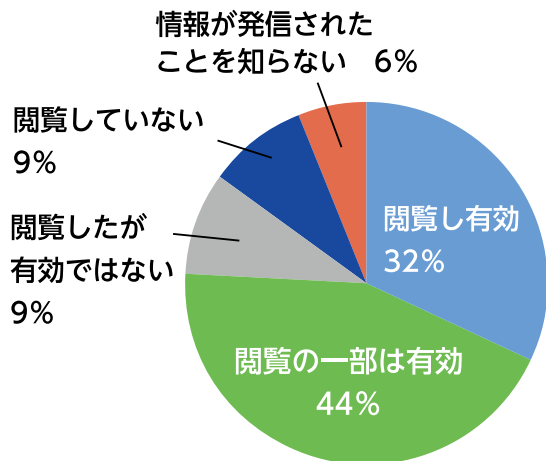
電子回覧板として各町会等の情報が投稿できるホーム機能の利用が33%で最多。また、自治体の広報誌やお知らせが届くコミュニティの利用者も28%とほぼ同様でした。町会等独自のコミュニティについては、役員で使われているものの他、趣味（写真・園芸等）や活動（防災・バザー等）があります。

区市からの情報は閲覧しましたか。また、有効でしたか。



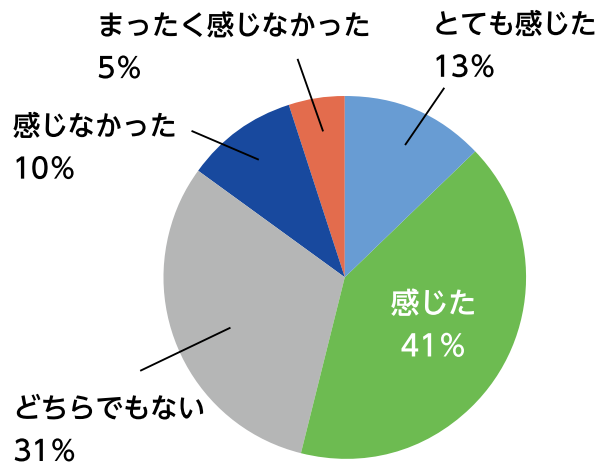
70%の利用者が有効だと回答。主要な情報がコミュニティ「自治体からのお知らせ」に届き、「区市からの情報がそのまま届くので良い」という声がありました。一方で、リンク付きの投稿に関しては「リンクを開かないと情報にたどり着けない」「リンク先が開くのが遅い」といった意見も。

町会からの情報は閲覧しましたか。
また、有効でしたか。



76%の利用者が有効だと回答。閲覧板や掲示板にはない、即時性に魅力を感じている声が多くありました。また、いつでもどこでも見られる利便性の高さを評価する意見もあります。

いちのいちを利用して便利だと感じましたか



54%の利用者が便利だと回答。「最初のインストールと登録さえできれば、閲覧や投稿といった利用は容易」という感想がありました。また、会員以外の利用者から「自治会に未加入なので（地域の情報は）役に立ちます」という意見も。

投稿内容（60団体合計）

ホーム
(閲覧板、地域情報)

投稿数 809 閲覧数 24,391

コメント 314 スタンプ 910

※スタンプ：投稿に対し、「いいね」「ありがとう」「見たよ」が簡単に伝わります

コミュニティ

作成数57（うち役員用途47、趣味等10）

カレンダー

28団体が利用

募集機能

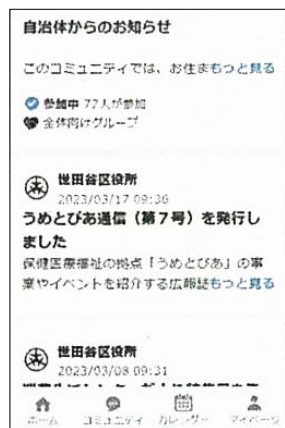
10団体が利用

（防犯パトロール、清掃活動、イベントへの参加呼びかけ等）

行政からの投稿

2区市合計39回（2022.9～2023.2）

1投稿につき1人あたりの閲覧数 平均2.4回



行政からの投稿

世田谷区 赤堤1丁目町会

町会加入世帯数

約 1,250 世帯 (区域内全体で約 2,400 世帯)

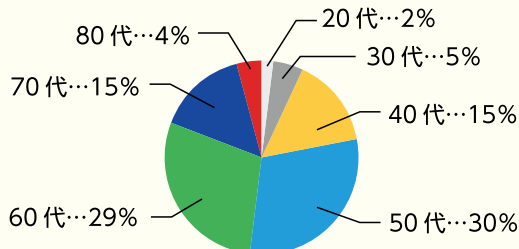
登録者数

2023年9月29日時点

149 人 (役員 5 人、会員 127 人、非会員 17 人)

登録者年齢分布

2023年2月28日時点



運用体制

役員中心で始めましたが、会員の方も投稿してくれるようになり、今はみんなでやっています。情報発信のペースは特に決めていませんが、行事のたびになるべく投稿するようにしています。町会からのお知らせ、会長のつぶやき、街のお困りごと等、投稿内容は様々です。

町会の主な活動

- ・防犯パトロール (毎週金曜日19時半~20時半実施)
- ・赤堤ホームコンサート (年3回開催)
- ・緑陰子ども会
- ・防災会議 (Zoomにて月に1度開催)
- ・歳末警戒パトロール
- ・日帰りバス交流会
- ・歳末親子パトロール&餅つき大会
- ・防災訓練 (年3回開催)

地域の特徴

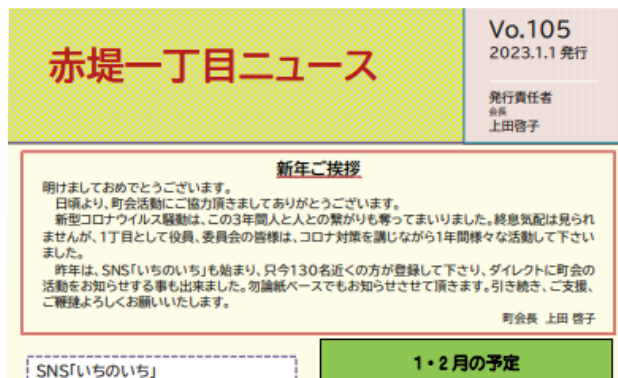
戸建てや低層階のマンションが整然と並ぶ閑静な住宅街。高齢者は多いですが、新しく建った家には若い子育て世帯が次々にやってきています。毎週金曜夜のパトロール、子供達のための縁日開催、20年以上続けている登校時の見守りに加え、定期総会後の議事録を全戸配布するなど、町会活動は活発です。

導入の目的・期待したこと

世田谷区からの案内を受け「みんなでつながれると面白いな」と思い、町会で「導入してみない？」と提案したところ、皆さんが賛成してくれたので参加しました。町会活動の姿を地域の皆さんに広くお見せできたら良いなと思っています。

利用者を増やすための広報の工夫

回覧板やホームページ等で伝えている町会の広報誌「赤堤一丁目ニュース」「防災ニュース」(隔月発行)に、いちのいちの案内を掲載しています。また、町会の行事に参加された方へも、口頭でアプリの登録を勧めています。さらに、引っ越して来られた方にはいちのいちのチラシを同封した町会の案内一式を持って、役員が挨拶に伺っています。



町会の広報誌でいちのいちを案内

投稿の内容

- ・町会からのお知らせ（行事の案内等）
- ・世田谷区・松沢まちづくりセンターからメールで届くお知らせを配信（*1）
- ・会長のつぶやき（街で感じたこと）
- ・町会員からの投稿（古着リサイクルの注意事項等）
- ・配信依頼を承った情報（デイホームからのボランティア募集等）
ただし、商業的なもの以外に限る）

*1. 世田谷区がいちのいちを通して直接配信するものとは別の情報。



赤堤1丁目町会 上田会長



ほっこりニュース

今朝の散歩は久しぶりに楽でした!!
何と、朝の6時に遊歩道を草刈りして下さる方をみつけた。以前から
刈っている方がいるとは聞いて

上田会長が投稿している
「ほっこりニュース」

投稿を見てもらうための工夫

区や町会のお知らせ以外に、街のちょっとした様子などを綴った「ほっこりニュース」等も投稿しています。「蚊がたくさんいる中、遊歩道で草刈りをしていてくれる方をお見かけしました」「玄関を開けたら蟬の抜け殻がありました」といった内容。堅苦しくせず、「次も読んでみよう」と楽しんでもらえるよう工夫しています。ローカルな情報を出すことで親近感を持ってもらうことができるので、投稿に対してコメントをいただくこともあります。

導入してよかったこと

掲示板や回覧板用に印刷するまでもないような情報を発信したり、今すぐに知ってもらいたい情報をスピーディーに届けたりできるのが良いですね。ホームページも運営していますが、いちのいちはスマホだけで発信できるので手軽です。

登録者数は150人程度とまだ少ないですが、それでも「町内の方とつながっているな」と感じます。以前より役員定例会、Zoom会議、LINEグループ等で連絡はこまめに取り合っている町会ではありますが、いちのいちによりコミュニケーションが益々活発になりました。

また、1名だけですが、いちのいちを通じて町会加入者を増やすこともできました。最初に未加入者でアプリに登録し、その後、町会へ加入のお問合せをいただいた、という流れです。

導入を検討している町会・自治会へのアドバイス

肩肘張らずに「地元の情報を地域の方に知らせてあげよう」という、軽い気持ちで発信すればいいと思います。立ち上げ時に運営する仲間を募る際は、無理に引っ張り込もうとするのではなく、「SNSが得意な方はいませんか」「一緒に参加してみませんか」等、人を巻き込みながら交流や活動を活発にしていけると良いですね。

それと、今は団塊の世代が仕事を離れ、続々と地域に戻ってきています。中にはITが得意な方もいると思うので、ここに町会を活性化するチャンスがあるとも考えています。これまで培ってきた能力を活かす場としてお迎えする良い機会ではないでしょうか。

世田谷区 烏山上町会

町会加入世帯数

約 1,800 世帯（区域内全体で約 10,000 世帯）

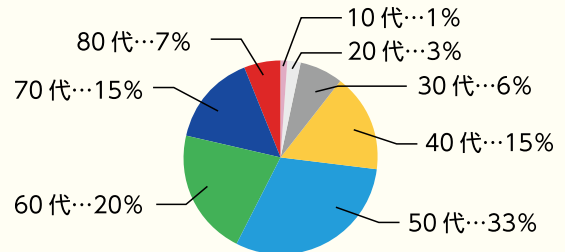
登録者数

2023年10月8日時点

85 人（役員 13 人、会員 42 人、非会員 30 人）

登録者年齢分布

2023年2月28日時点



運用体制

会長、広報担当、いちのいち内でコミュニティを立ち上げた方（2名）とで運営しています。実証事業であるということで、まずは少人数で進めています。

町会の主な活動

- ・防災訓練
- ・交通安全運動
- ・日帰り旅行
- ・避難所運営訓練

地域の特徴

京王電鉄京王線「千歳烏山駅」を含む、商業地と住宅地を抱えるおよそ 10,000 世帯ある大きな町会。特急停車駅ということもあり、駅前には活気ある商店街が広がっています。高齢者が増えてきていますが、駅周辺には5つの小学校があり（烏山上町会内には1校）、子育て世帯も多い街です。

導入の目的・期待したこと

烏山上町会では特に防災活動に力を入れており、災害時を想定してどう動くのかを常に考え、皆で取り組んでいます。2021年、防災情報を伝えるために町会のホームページを立ち上げました。それと同時期に、役員間での連絡をスムーズにするため LINE グループの活用も開始。そんな折、町会・自治会活動への地域交流アプリ等導入支援事業を知り、「防災について周知してもらうためのひとつの手段としてやろう」と踏み切りました。

利用者を増やすための広報の工夫

回覧板でチラシをまわしたり、町会の掲示板2か所で掲示したりしています。また、避難訓練や防災訓練の際にも案内。急激に伸びるということはありませんが、じわじわと登録者数は伸びてきています。

投稿の内容

町会活動の予定、防災に関する情報、会長のコラム等を投稿しています。メインのホーム画面への投稿以外では、コミュニティ機能を活用しています。ペット防災のコミュニティ（参加者10人）、商店街の事務局長さんが引き受けてくれた商店街のコミュニティ（参加者6人）、そして役員用のコミュニティ（参加者10人）の3つです。



アプリのコミュニティ画面

「ペット防災」のコミュニティについて

我々町会では、人間の防災問題を追求しているのですが、それに付随して「うちにはペットがいるんだけど、どうしたらいいの?」「避難所にはペットは連れていけないの?」という話が出てきました。町会にペット防災について詳しい方がいたので、その方を筆頭にコミュニティを立ち上げてもらいました。大きく前進したとまではいかないけれど、少しずつ意見を出し合いながら、一緒に進めていけたらいいなと考えています。



ペット防災コミュニティ

投稿を見てもらうための工夫

デジタル回覧板と避難所・防災訓練関連の投稿は公開状態にしています。

その中で閲覧数が高かった投稿は、「避難所には何人入れるのか?」といった災害時を想定した情報、年末年始のゴミの出し方情報、近隣の道路工事情報です。道路工事のようなご近所の話については、「ここが通れるようになったら、どう変わるでしょうね」等、コメントもつきやすくなりますね。

また、会員限定で会長のコラムが読めるようにして、特別感を出しています。会長は地域の方に長年親しまれてきた「烏山文化寄席」の主催者であり、過去30年間に烏山区民センターで40回開催してきました。コラムではその裏話や地域の小話などを綴っています。

導入してよかったこと

みんながデジタルに前向きになりました。この取り組みは町会の中でも輝いていて、窓から光が差し込んできたような印象です。回覧板は一方通行の情報伝達ですが、いちのいちによりコメントやスタンプでの交流が生まれました。新たな流れができたことで、将来への期待感があります。

家庭内においても「親子でアプリの使い方について話し合った」「孫に教えてもらった」等、家族のコミュニケーションが高まったという声もあります。

導入を検討している町会・自治会へのアドバイス

一歩進んで始めるべきだと思います。「自分にはできない」「皆に話しても賛同が得られないだろう」などと足踏みしていたら、何も打開することはできません。もし、町会がしぼんでいくと感じているのなら、こうした新しいものを求めて始めてみると良いでしょう。



左から杉田 総務部長、古馬会長、芝澤 広報担当

町田市 忠生忠霊地区自治会

町会加入世帯数

約 90 世帯（区域内全体で約 180 世帯）

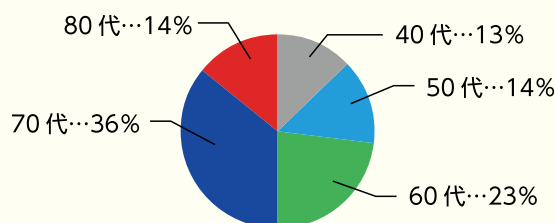
登録者数

2023年10月18日時点

21 人（役員 9 人、会員 11 人、未加入者 1 人）

登録者年齢分布

2023年2月28日時点



運用体制

実務を行う担当者は会長1名のみ。実務ではなくサポート役として、ITに詳しい自治会員（40代）にいちのいち運用に関する意見をもらっています。

町会の主な活動

- ・地域の清掃
- ・月1回の防犯パトロール
- ・どんど焼き
- ・ハロウィン
- ・小学生の登下校見守り
- ・年末の特別警戒パトロール
- ・花壇づくり

地域の特徴

こぢんまりとしていて、歩いてすぐに地域を巡れるほどの狭い自治会です。最近の傾向としては、お一人住まいが増えてきて全体のおよそ25%を占めています。また、自治会加入者のおよそ8割が60歳以上で、高齢者の割合が高くなってきています。以前は盆踊りが恒例行事だったのですが、やぐらを建てるなど体力的な厳しさから開催できなくなってしまいました。

導入の目的・期待したこと

大きな目的は2つ、地域コミュニケーションの活性化と役員の負担軽減です。

自治会では、一人暮らしや高齢者の方ほど、デジタルツールを有効に使うと欲していると考えています。それは自分の身を守ることにつながるからです。たとえば、災害発生時などに、「ここにはこういう方が暮らしています」というのがわかれば救助しやすくなります。コロナ禍や高齢化などで付き合いが薄くなりつつありますが、デジタルでつながっていれば、様子を知れるひとつのきっかけになるでしょう。

また、昨今は役員のなり手が減っています。少人数でも運営できるよう、デジタル化による負担軽減を目指したいです。

それともうひとつ。これまでは電話や訪問もご近所を知る手段のひとつでしたが、最近は電話・訪問の詐欺が増えたので警戒する高齢者が多く、それ以外のツールが求められていたという背景もあります。

利用者を増やすための広報の工夫

私たちの自治会では「高齢者が多い、スマートフォンに不慣れな方がいる、これらをどう乗り越えるか？」という課題がありました。そこで都が実施している高齢者向けのスマートフォン教室に申し込み開催。その際、いちのいちを運営する小田急電鉄の担当者にもきてもらい、登録の手ほどきをいただきました。

投稿の内容

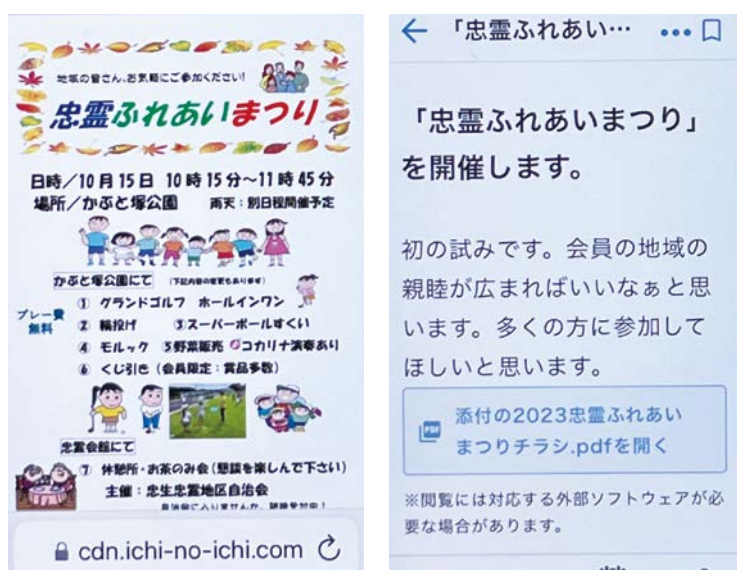
投稿は電子回覧板機能を使って、月に最低1回、多い月は5回以上の情報発信を行なっています。

<投稿内容>

- ・毎月1回実施している「資源回収」の案内
- ・「防災訓練」開催の案内
- ・「忠霊ふれあいまつり」開催の案内
- ・「年末の警戒パトロール」実施の案内
- ・その他、自治会特有のお知らせ



忠生忠霊地区自治会 川畑会長



忠霊ふれあいまつりのお知らせ

投稿を見てもらうための工夫

見てもらうためには、ある程度こまめな情報発信が必要です。最低月に1度は投稿し、多い月は5回以上の配信を行うこともあります。

その際、「1投稿1案内」がおすすめです。回覧板のように複数のチラシ等をまとめて案内すると配信の手間は軽減できますが、アプリでは見てもらいにくくなります。行事やお知らせごとに投稿すると良いでしょう。

導入してよかったこと

自分達の団体がつくった案内を載せられる（配信・掲載できる）ツールがあることで、チャンスを広げてもらっていると感じます。また、回覧板は一瞬で流れてしまうけど、いちのいち過去の投稿を見返すことができるのがメリットです。

余談ですが、かつては自治会ホームページもありましたが、担当者が転勤していなくなったため更新が途絶えてしまいました。アプリだと運営しやすいのも良いですね。

導入を検討している町会・自治会へのアドバイス

まずは、パソコンやスマートフォンが得意な方を見つけるのが肝心です。うちの場合はたまたま私でしたが、若い方や役員以外の方でも良いので、ITに長けた人を見つけてその人にサポートしてもらわないと運用や利用促進等が進められず成り立たないと思います。また、登録時にまごついてしまうと諦めてしまうので、できるだけ準備を整えてスタートしやすいようにしておくといいでしょう。

投稿内容については、まずは自分たちの町会・自治会で回している回覧版を電子化して配信。その後、いろいろと活用を広げていければ良いと思います。

町田市 旭町二丁目町内会

町会加入世帯数

約 170 世帯 (区域内全体で約 500 世帯)

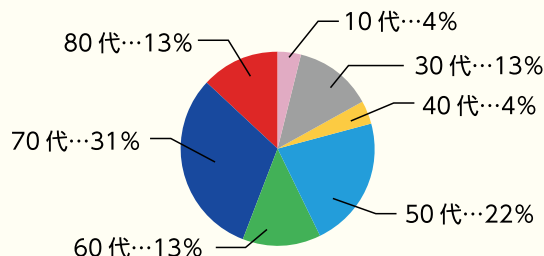
登録者数

2023年10月18日時点

約 50 人 (役員約 10 人、会員約 40 人、未加入者 1 人)

登録者年齢分布

2023年2月28日時点



運用体制

担当は会長 1 名のみ。今後、利用をより積極的にしていくとなると管理者の負担が大きくなるので、安定的に運営するためには複数人での運用体制が必要だと感じます。たとえば、班ごと (全 14 班) に担当者を決める等。

町会の主な活動

- ・防災活動
- ・焼き芋大会 (子供達に消火器の使い方を教える初期消化訓練も同時開催)
- ・ハロウィン
- ・日帰りバス旅行 (現在休止中)

地域の特徴

15 歳以下の子供が約 10%、65 歳以上の高齢者は約 30%。世代的には中間層が多い町内会です。地域には町田市民病院があり、周辺は主に住宅地。戸建てが多いですが、最近は集合住宅が増え、そこには若い世代が外からどんどん入ってきています。

導入の目的・期待したこと

町田市からの案内で支援事業を知り、参加を決めました。最も期待したのは災害時の活用。「地域の避難所情報や住民の安否確認に活用できそうだ」と考えたからです。幸いにも期間中に大きな災害はなかったのですが、2023年2月19日、町田市で各町内会・自治会向けに一斉開催した「デジタル町内会『いちのいち』の防災訓練」にリモートで参加し、町内会で実際の使い方について学びました。

また、昨今は隣近所の関わりが薄くなってきています。たとえばご不幸があった際、かつてはご近所で葬儀の助け合いをしていたのですが、今は大半が家族葬です。そのため、お亡くなりになって数ヶ月も経ってから訃報に接することが多々あります。町内会の定例会に関しても、参加する顔ぶれはいつも決まっています。そうした状況もあり、コミュニケーションを活性化する手段のひとつとしてデジタルは積極的に使っていきたいと考えています。

利用者を増やすための広報の工夫

町内会の掲示板と回覧板で案内しています。回覧板に関しては、より登録してもらいやすいよう旭町二丁目町内会用の二次元コードを付けてチラシと合わせて継続的に案内。それが功を奏したのか、少しずつ伸びています。ただ、若い方はチラシだけで登録してもらえるのですが、年配者となると自分で登録・利用するのが難しい場合があります。そこで、町田市や小田急電鉄に協力いただき勉強会を実施。「アプリをインストールして設定するのが難しい」「LINEの方が慣れている」などの声もあり、利用者を増やすためには手ほどきの必要性を感じます。



回覧でいちのいちの登録を継続的に案内

投稿の内容

投稿数としてはまだ少ないのですが、子供の登下校見守り活動のお礼や、ハロウィンイベント開催のご案内などを投稿しています。コメントやスタンプで反応がもらえるので、双方向のコミュニケーションが取れると実感できます。



ハロウィンイベントのお知らせ



旭町二丁目町内会 中会長

投稿を見てもらうための工夫

小さな文字が見つらい方は、PDFファイルなどの添付資料は読むのが困難。スマートフォンを横にしたり拡大したりしないと読めない。そのため、投稿にわかりやすいタイトルをつけるなど、パッと見ただけで伝わる工夫が必要だと思います。また、まだ試してはいませんが、YouTube等も活用して動画や音声で届けるのも良さそうです。

導入してよかったこと

スピード感がありますね。回覧板はまわすのに1週間ほど掛かることがありますが、アプリだと一瞬で案内することができます。また、町田市からいちのいちへ配信される自治体からのお知らせも、紙よりも早く届くので把握しやすくなりました。郵送が届く前に「これは回覧板で案内しよう」「これは掲示板で貼り出してみんなに伝えた方が良い」等をあらかじめ考えておくことができます。

また、LINE はアカウント名やアイコンから相手を特定しづらいことがありますが、いちのいちは本名で登録するのが基本なので誰だかわかる安心感があります。

導入を検討している町会・自治会へのアドバイス

デジタル化を進めるにあたり、すぐに地域に浸透する訳ではないということがわかりました。会長や役員が1年で交代する場合、次年度に引き継がれないとそこで途切れてしまう恐れがあります。計画する際は長期的な視点で検討すると良いでしょう。

また、今の段階においては旧来のアナログとデジタルは併用するのが良いと思います。なぜなら、たとえば子供向けの「ハロウィン」などのイベントをデジタル回覧板でしか配信していないと、親が子供に話してあげないと伝わらない。だから、子供自身が見ることができる街の掲示板もやっぱり大事。回覧板、掲示板、そしてアプリの3つを併用することで、より多くの方に情報を伝えることができるでしょう。

東京都生活文化スポーツ局 都民生活部 地域活動推進課 地域活動支援担当

住 所 〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

T E L 03-5388-3166

メール S1121202@section.metro.tokyo.jp

東京都生活文化スポーツ局

令和5年12月 東京都発行 (5) 93号

リサイクル適性[®]A

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

R60

古紙・パルプ配合率60%再生紙を使用